認定看護師教育基準カリキュラム
（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A課程教育機関）
改正概要

分野	がん化学療法看護		
分野特定年	1998年	認定開始年	2001年
カリキュラム検討期間	2018年6月～2019年3月		

【改正趣旨】

がん化学療法看護分野の教育基準カリキュラムは2012年度の改正から6年が経過したため、見直しを行った。その結果、特殊な治療・病態に応じて対応できるよう単元に明示した。また、合同講義可能な単元について、他のがん関連分野と揃えて単元内容を整理し、新たに在宅療養する患者を支援できるよう単元を追加した。その他、薬剤について最新の表記に修正した。

【主な改正箇所】※詳細は別紙「新旧対照表」参照

1. 目的（p.1）
   他分野と揃え、文言を整理した。
2. 期待される能力（p.1）
   他分野と揃え、表記を整理した。
3. 専門基礎科目
- 旧の教科目3「腫瘍学概論（p.4）」単元1）（3）「がん細胞の特徴」の括弧内に「ゲノム」を追加した。また、単元3）「診断方法」の括弧内に新たに「遺伝子診断」を追加した。
- 旧の教科目4「がんの医療サービスと社会的資源（p.4）」は、単元1）「がんのチーム医療」を削除し、単元2）以降の単元番号を一つずつ繰り上げた。また、単元2）「がんの医療政策」の括弧内は「がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん登録等の推進に関する法律」を追加した。さらに、新たに単元4）「在宅医療の仕組みと法的枠組み」、単元5）「在宅医療を支える職種間の連携」、単元6）「在宅療養するがん患者と家族を支援する看護師の役割」を追加した。
4. 専門科目
- 旧の教科目1「がん化学療法概論（p.5）」について、単元7）「遺伝子診断と治療薬の選択」を追加した。
- 旧の教科目2「がん化学療法薬の知識（p.5）」は、「抗がん剤」の表記は「殺細胞性抗がん薬」に変更した。また、下位単元として（4）「免疫チェックポイント阻害薬」、（5）「その他」を追加した。
- 旧の教科目5「がん化学療法レジメンの特徴と看護（p.6）」について、単元3）「患者の特性に応じた看護」を追加した。
- 旧の教科目8「がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を支える看護援助（p.7）」は、単元3）「意思決定に伴う倫理的問題」の括弧内に「遺伝子カウンセリング、妊孕性の温存等を含む」と具体的内容を示した。

日本看護協会 認定部

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

【目的・期待される能力】

旧	新	改正理由
（目的） 1. がん化学療法を受ける患者とその家族の QOL 向上に向けて、水準の高い看護を実践する能力を育成する。 2. がん化学療法看護分野の専門的知識と実践力を基盤として、他の看護職者に対して指導・相談ができる能力を育成する。	1. がん化学療法を受ける患者とその家族の QOL 向上に向けて、熟練する看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。 2. がん化学療法看護分野の専門的知識と実践力を基盤として、他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。 3. がん化学療法看護分野の専門的知識と実践力を基盤として、他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。	・旧 1 は、他分野と揃え文言を整理した。 ・旧 2 について、「指導」と「相談」の 2 つの役割が入っていたため、新の目的 2 と 3 に分けた。また、他分野と揃え文言を整理した。
（期待される能力） 1. がん化学療法を受ける患者・家族の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、専門性の高い看護を実践できる。 2. 薬物・レジメンの特性と管理の知識をもとに、投与管理、副作用対策を、安全かつ適正に責任をもって行うことができる。 3. がん化学療法を受ける患者・家族が、主体性を持って治療に向き合うためのセルフケア能力を高められるように、効果的な看護援助を行うことができる。 4. がん化学療法を受ける患者・家族の権利を擁護し、意思決定を尊重する看護を実践できる。 5. より質の高い医療を推進するため、他職種と共働し、チームの一員として役割を果たすことができる。 6. がん化学療法看護の実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行うことができる。	（期待される能力） 1. がん化学療法を受ける患者・家族の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、専門性の高い看護を実践できる。 2. 薬物・レジメンの特性と管理の知識をもとに、投与管理、副作用対策を、安全かつ適正に責任をもって行うことができる。 3. がん化学療法を受ける患者・家族が、主体性を持って治療に向き合うためのセルフケア能力を高められるように、効果的な看護援助を行うことができる。 4. がん化学療法を受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。 5. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。 6. がん化学療法看護の実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応を行うことができる。	・旧 4 は、他分野と表現を合わせ変更した。 ・旧5「他職種と共働し」は、看護職を含めた多くの職種との協働の意味を表すため、表記を変更した。 ・旧6の文言を整理した。

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

【共通科目】

旧		新		改正理由
教科目	時間数 必修/選択	教科目	時間数 必修/選択	
1. 医療安全学：医療倫理	15（必修）	1. 医療安全学：医療倫理	15（必修）	2018 年度共通科目改正のとおり変更した。
2. 医療安全学：医療安全管理	15（必修）	2. 医療安全学：医療安全管理	15（必修）	
3. 医療安全学：看護管理	15（必修）	3. 医療安全学：看護管理	15（必修）	
4. 臨床薬理学：薬理作用	15（必修）	4. 臨床薬理学：薬理作用	15（必修）	
5. チーム医療論（特定行為実践）	15（必修）	5. チーム医療論（特定行為実践）	15（必修）	
6. 相談（特定行為実践）	15（必修）	6. 相談（特定行為実践）	15（必修）	
7. 指導	15（必修）	7. 指導	15（必修）	
8. 医療情報論	15（必修）	8. 医療情報論	15（選択）	
9. 臨床薬理学：薬物動態	15（選択）	9. 臨床薬理学：薬物動態	15（選択）	
10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30（選択）	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30（選択）	
11. 特定行為実践	30（選択）	11. 特定行為実践	15（選択）	
12. 対人関係	15（選択）	12. 対人関係	15（選択）	
13. 臨床病態生理学	45（選択）	13. 臨床病態生理学	40（選択）	
14. 臨床病態生理学演習	15（選択）	14. 臨床推論	45（選択）	
15. 臨床推論	45（選択）	15. 臨床推論：医療面接	15（選択）	
16. 臨床推論：医療面接	15（選択）	16. フィジカルアセスメント：基礎	30（選択）	
17. フィジカルアセスメント：基礎	30（選択）	17. フィジカルアセスメント：応用	30（選択）	
18. フィジカルアセスメント：応用	30（選択）	18. 疾病・臨床病態概論	40（選択）	
19. 疾病：臨床病態概論：5 疾病	30（選択）	19. 疾病・臨床病態概論：状況別	15（選択）	
20. 疾病・臨床病態概論：その他の主要疾患	30（選択）			
21. 疾病・臨床病態概論：年齢別・状況別	30（選択）			
計	120（＋360）	計	105（＋305）	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

【専門基礎科目】　※ゴシック体表記は、緩和ケアまたはがん性疼痛看護との合同講義が可能な単元

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
1. がん看護学総論	15	がん看護に必要な基礎知識を理解する。	**1）がん看護の専門性、発展と課題 2）がん医療チームにおける看護の役割 （1）他職種の専門性の理解 （2）コミュニケーションの技術 （3）医療チームにおける看護師の役割 3）がん患者・家族の特徴（身体・心理・社会的・スピリチュアルな特徴、トータルペイン、がん患者のQOL、がん患者の家族、サバイバーシップ等） 4）がん患者を理解するために必要な概念（セルフケア理論、ストレス・コーピング理論、危機理論、障害受容過程、家族看護理論等） 5）がん患者とリハビリテーション （1）治療に伴うリハビリテーション （2）機能維持のためのリハビリテーション 6）がん患者とヘルスプロモーション**	1. がん看護学総論	15 （必修）	がん看護に必要な基礎知識を理解する。	**1）がん看護の専門性、発展と課題 2）がん医療チームにおける看護の役割 （1）他職種の専門性の理解 （2）コミュニケーションの技術 （3）医療チームにおける看護師の役割 3）がん患者・家族の特徴（身体・心理・社会的・スピリチュアルな特徴、トータルペイン、がん患者のQOL、がん患者の家族、サバイバーシップ等） 4）がん患者を理解するために必要な概念（セルフケア理論、ストレス・コーピング理論、危機理論、障害受容過程、家族看護理論等） 5）がん患者とリハビリテーション （1）治療に伴うリハビリテーション （2）機能維持のためのリハビリテーション 6）がん患者とヘルスプロモーション**	
2. ヘルスアセスメント	15	がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	**1）アセスメントプロセス 2）フィジカルアセスメント （呼吸機能、循環機能、脳/神経機能、栄養代謝状態、感覚・運動機能等） 3）精神・心理的アセスメント 4）社会的アセスメント （成長発達段階と役割等） 5）家族のアセスメント**	2. ヘルスアセスメント	15 （必修）	がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	**1）アセスメントプロセス 2）フィジカルアセスメント （呼吸機能、循環機能、脳/神経機能、栄養代謝状態、感覚・運動機能等） 3）精神・心理的アセスメント 4）社会的アセスメント （成長発達段階と役割等） 5）家族のアセスメント**	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
3. 腫瘍学概論	15	がん看護実践に必要ながんに関する医学的知識を理解する。	**1）がん細胞の特徴** **（1）細胞の構造** **（核、細胞質、細胞膜）** **（2）細胞の発育過程** **（分裂、増殖、アポトーシス、シグナル伝達など）** **（3）がん細胞の特徴** **（発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移）** **2）がんの疫学** **（1）統計（罹患率、死亡率）** **（2）がん登録システム** **3）がんの診断** **診断方法** **（画像、腫瘍マーカー、血液検査、病理など）** **4）がんの予防と検診** **（1）がんのリスク因子** **（2）がん検診の有効性** **5）がんの集学的治療**	3. 腫瘍学概論	15 （必修）	がん看護実践に必要ながんに関する医学的知識を理解する。	**1）がん細胞の特徴** **（1）細胞の構造** **（核、細胞質、細胞膜）** **（2）細胞の発育過程** **（分裂、増殖、アポトーシス、シグナル伝達等）** **（3）がん細胞の特徴** **（発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移、ゲノム）** **2）がんの疫学** **（1）統計（罹患率、死亡率）** **（2）がん登録システム** **3）がんの診断** **（1）診断方法** **（画像、腫瘍マーカー、血液検査、病理、遺伝子診断等）** **4）がんの予防と検診** **（1）がんのリスク因子** **（2）がん検診の有効性** **5）がんの集学的治療**	・新 1）（3）、3）（1）は第 3 期がん対策推進基本計画に基づき、追加した。
4. がんの医療サービスと社会的資源	15	がん患者の療養の場の特性を理解し、療養生活に必要な支援を提供できる能力を身につける。	**1）がんのチーム医療** **（臨床腫瘍医、臨床薬剤師、がん看護専門看護師、他のがん領域の認定看護師、理学療法士など）** **2）がんの医療政策** **（診療報酬、がん診療連携拠点病院、相談支援センターなど）** **3）がん患者と家族が活用できる社会資源** **（高額療養費制度、在宅悪性腫瘍指導管理料、在宅酸素療法など）** **4）がんと医療経済** **（治療費、就労問題等）**	4. がんの医療サービスと社会的資源	15 （必修）	がん患者の療養の場の特性を理解し、療養生活に必要な支援を提供できる能力を身につける。	**1）がんの医療政策** **（がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん登録等の推進に関する法律、診療報酬等）** **2）がん患者と家族が活用できる社会資源** **（高額療養費制度、在宅酸素療法等）** **3）がんと医療経済** **（治療費、就労問題等）** **4）在宅医療の仕組みと法的枠組み** **5）在宅医療を支える職種間の連携** **6）在宅療養するがん患者と家族を支援する看護師の役割**	・旧 1）「がんのチーム医療」は、教科目 1「がん看護学総論」2）「がん医療チームにおける看護の役割」と内容が重複するため削除した。 ・上記削除にともない、旧 2）「がんの医療政策」以降の単元番号を新では一つずつ繰り上げた。 ・旧 2）は、他のがん関連分野と合わせ、括弧内に「がん対策基本法」「がん対策基本推進計画」「がん登録等の推進に関する法律」を追加した。 ・旧 2）の括弧内のがん診療連携拠点病院、相談支援センターは、がん対策推進基本計画に含まれるため削除した。 ・旧 3）括弧内の「在宅悪性腫瘍指導管理料」は、診療報酬の項目で 2）に含まれるため削除した。 ・新 4）5）6）他のがん関連分野と合わせ、在宅療養する患者を支援できるよう単元を追加した。
計	60			計	60			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

【専門科目】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
1. がん化学療法概論	15	薬剤の開発プロセスとがん化学療法の適応基準、治療効果の判定方法を理解する。	1）メディカルオンコロジーの領域と専門性 2）がん化学療法の適応基準 3）がん化学療法と EBM 4）臨床試験と治験コーディネーター 5）がん化学療法薬の開発 6）がん化学療法による治療効果の評価	1. がん化学療法概論	15 （必修）	薬剤の開発プロセスとがん化学療法の適応基準、治療効果の判定方法を理解する。	1）メディカルオンコロジーの領域と専門性 2）がん化学療法の適応基準 3）がん化学療法とEBM 4）臨床試験と治験コーディネーター 5）がん化学療法薬の開発 6）がん化学療法による治療効果の評価 7）遺伝子診断と治療薬の選択	・新7）最新の動向に基づき、追加した。
2. がん化学療法薬の知識	15	がん化学療法で用いる薬剤の特性と作用機序を理解する。	がん化学療法で用いる薬剤の特性と作用機序、副作用管理、取り扱い（抗がん剤、分子標的療法薬、ホルモン療法薬）	2. がん化学療法薬の知識	15 （必修）	がん化学療法で用いる薬剤の特性と作用機序を理解する。	1）がん化学療法で用いる薬剤の特性と作用機序、副作用管理、取り扱い （1）殺細胞性抗がん薬 （2）分子標的療法薬 （3）ホルモン療法薬 （4）免疫チェックポイント阻害薬 （5）その他	・旧単元の表記を整理した。 ・旧単元の「抗がん剤」の表記を最新の表記に変更した。 ・新（4）現在の薬物療法に基づき、追加した。 ・新（5）新薬に対応するため追加した。
3. 主な疾患のがん化学療法	30	主な疾患の病態とその治療を理解し、がん化学療法の目的と適応について理解する。	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解）/標準治療と最新の動向 ・乳がん ・肺がん ・消化器がん ・婦人科がん ・泌尿器がん ・造血器腫瘍	3. 主な疾患のがん化学療法	30 （必修）	主な疾患の病態とその治療を理解し、がん化学療法の目的と適応について理解する。	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解）/標準治療と最新の動向 ・乳がん ・肺がん ・消化器がん ・婦人科がん ・泌尿器がん ・造血器腫瘍	
4. がん化学療法を受ける患者・家族のアセスメント	15	がん化学療法を受ける患者・家族の置かれている状況をふまえ、看護援助を効果的に実施するためのアセスメント方法を理解する。	1）がん化学療法を受ける患者・家族の置かれている状況 2）がん化学療法と身体的アセスメント 3）がん化学療法と精神・心理的アセスメント（不安、抑うつ、適応障害、せん妄など） 4）がん化学療法と社会的アセスメント 5）がん化学療法とスピリチュアルなアアセスメント 6）事例検討	4. がん化学療法を受ける患者・家族のアセスメント	15 （必修）	がん化学療法を受ける患者・家族の置かれている状況をふまえ、看護援助を効果的に実施するためのアセスメント方法を理解する。	1）がん化学療法を受ける患者・家族の置かれている状況 2）がん化学療法と身体的アセスメント 3）がん化学療法と精神・心理的アセスメント（不安、抑うつ、適応障害、せん妄等） 4）がん化学療法と社会的アセスメント 5）がん化学療法とスピリチュアルなアアセスメント 6）事例検討	

別紙

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
5. がん化学療法レジメンの特徴と看護	15	レジメンの特徴をふまえ、それに応じた看護を理解する。	1）がん化学療法レジメンの特徴と看護 （与薬方法と与薬時の注意点、副作用の出現の仕方と特徴、レジメンに伴う支持療法等） 2）がん化学療法の施行前、施行中、施行後の看護のポイント	5. がん化学療法レジメンの特徴と看護	15 （必修）	レジメンの特徴をふまえ、それに応じた看護を理解する。	1）がん化学療法レジメンの特徴と看護 （与薬方法と与薬時の注意点、副作用の出現の仕方と特徴、レジメンに伴う支持療法等） 2）がん化学療法の施行前、施行中、施行後の看護のポイント <u>3）患者の特性に応じた看護</u> <u>・年齢による特性（小児、AYA世代、高齢者）</u> <u>・特殊な治療・病態（透析治療、フレイル、臨死期等）</u>	・新 3）第 3 期がん対策推進基本計画に応じて追加した。
6. 薬剤の投与管理とリスクマネジメント	30	がん化学療法薬の投与管理と安全な取り扱いを理解する。	1）投与経路別の管理と事故防止 （1）経静脈的投与 ・血管のアセスメント、穿刺手技 ・血管アクセス用具（VADs）の種類と特徴・適応・取り扱い上の注意点 ・皮下埋込式ポート （2）経動脈的投与 （皮下埋込式ポート等） （3）経口的投与 （4）その他の経路 （皮下、筋肉、腔内注射等） 2）曝露対策 （1）リスク分類 （2）曝露対策 ・適切な防護（個人防護用具） ・安全で適切な調製 ・飛散への対応 ・排泄物の取り扱い、廃棄等 3）救急時の対応・システム整備 （血管外漏出、腫瘍崩壊症候群、過敏症等）	6. 薬剤の投与管理とリスクマネジメント	30 （必修）	がん化学療法薬の投与管理と安全な取り扱いを理解する。	1）投与経路別の管理と事故防止 （1）経静脈的投与 ・血管のアセスメント、穿刺手技 ・血管アクセス用具（VADs）の種類と特徴・適応・取り扱い上の注意点 ・皮下埋込式ポート （2）経動脈的投与 （皮下埋込式ポート等） （3）経口的投与 （4）その他の経路 （皮下、筋肉、腔内注射等） 2）曝露対策 （1）リスク分類 （2）曝露対策 ・適切な防護（個人防護用具） ・安全で適切な調製 ・飛散への対応 ・排泄物の取り扱い、廃棄等 3）救急時の対応・システム整備 （血管外漏出、腫瘍崩壊症候群、過敏症等）	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
7. がん化学療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援	45	がん化学療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援を理解する。	1）副作用症状のアセスメント （症状の発生機序、患者の症状体験、セルフケア能力等のアセスメントを含む） 2）マネジメントのために必要な知識と技術 （1）薬物療法 支持療法に用いられる主な薬物とその使い方、ガイドラインの活用 （2）非薬物療法（補完・代替療法を含む） 3）患者・家族指導とセルフケア支援 （服薬指導、教材開発等） 4）マネジメントの評価方法（QOL など） 5）事例検討	7. がん化学療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援	45 （必修）	がん化学療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援を理解する。	1）副作用症状のアセスメント （症状の発生機序、患者の症状体験、セルフケア能力等のアセスメントを含む） 2）マネジメントのために必要な知識と技術 （1）薬物療法 支持療法に用いられる主な薬物とその使い方、ガイドラインの活用 （2）非薬物療法（補完・代替療法を含む） 3）患者・家族指導とセルフケア支援 （服薬指導、教材開発等） 4）マネジメントの評価方法（QOL 等） 5）事例検討	
8. がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を支える看護援助	15	がん化学療法を受ける患者・家族の意思決定プロセスについて理解し、場面に応じた看護師の役割を知る。	1）患者・家族の意思決定プロセス 2）インフォームド・コンセントにおける看護師の役割 3）意思決定に伴う倫理的問題 4）意思決定に関する要因のアセスメント 5）意思確認のコミュニケーション 6）意思決定を支える看護援助 7）事例検討	8. がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を支える看護援助	15 （必修）	がん化学療法を受ける患者・家族の意思決定プロセスについて理解し、場面に応じた看護師の役割を知る。	1）患者・家族の意思決定プロセス 2）インフォームド・コンセントにおける看護師の役割 3）意思決定に伴う倫理的問題（遺伝子カウンセリング、妊孕性の温存等を含む） 4）意思決定に関する要因のアセスメント 5）意思確認のコミュニケーション 6）意思決定を支える看護援助 7）事例検討	・新 3）具体的内容を追加した。

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
9. 外来/在宅がん化学療法と看護援助	15	<u>他</u>職種と<u>共</u>働し、患者・家族に切れ目のない看護支援を提供する方法を理解する。	1）外来/在宅におけるがん化学療法の現状（治療環境等、ソーシャルサポートを含む） 2）外来/在宅でがん化学療法を受ける患者と家族を支援する看護師の役割 3）外来/在宅でがん化学療法を受ける患者の相談（電話相談、専門外来など）とトリアージ 4）外来/在宅がん化学療法における他部門との<u>共</u>働（ソーシャルワーカー、訪問看護師、介護福祉士、ケアマネジャーなど） 5）継続看護の体制について（入院から外来 /在宅治療への移行、地域連携拠点病院との連携）	9. 外来/在宅がん化学療法と看護援助	15 (必修)	<u>多</u>職種と<u>協</u>働し、患者・家族に切れ目のない看護支援を提供する方法を理解する。	1）外来/在宅におけるがん化学療法の現状（治療環境等、ソーシャルサポートを含む） 2）外来/在宅でがん化学療法を受ける患者と家族を支援する看護師の役割 3）外来/在宅でがん化学療法を受ける患者の相談（電話相談、専門外来等）とトリアージ 4）外来/在宅がん化学療法における他部門との<u>協</u>働（ソーシャルワーカー、訪問看護師、介護福祉士、ケアマネジャー等） 5）継続看護の体制について（入院から外来 /在宅治療への移行、地域連携拠点病院との連携）	・文言を「期待される能力」に記載の表現と合わせ一部変更した。
計	195			計	195			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

【学内演習】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
総合演習	60	演習を通して、認定看護師の実践の基盤となる思考過程や技術を習得する。	課題学習（ケースセミナー等） 1）最新のトピックスに関すること 2）クリティカルシンキングやコミュニケーションに関する演習 3）臨地実習後の事例検討 （学生セミナー、事例カンファレンス） 4）臨地実習事例の看護過程をまとめる （記述） 5）主要概念を用いた看護の展開	総合演習	60 （必修）	演習を通して、認定看護師の実践の基盤となる思考過程や技術を習得する。	課題学習（ケースセミナー等） 1）最新のトピックスに関すること 2）クリティカルシンキングやコミュニケーションに関する演習 3）臨地実習後の事例検討 （学生セミナー、事例カンファレンス） 4）臨地実習事例の看護過程をまとめる（記述） 5）主要概念を用いた看護の展開	
計	60			計	60			

別紙

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（がん化学療法看護分野）

改正箇所：下線部

【臨地実習】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
臨地実習	180	本課程で学んだ知識・技術を活用し、がん化学療法看護認定看護師に必要な実践・指導・相談の役割を展開する能力を習得する。	1）がん化学療法を安全・確実に実施するためのシステムについて理解する。 2）がん化学療法が行なわれている病棟や外来において、がん化学療法薬を安全かつ的確に取り扱い、経静脈投与、管理を適切に行う。 ・ 患者インタビューや聞き取りによって、患者の持つ問題を明確にする。 ・ 個別的で適切なアセスメントをもとに、その患者と状況にあった看護援助の計画・実施・評価を行う。 ・ 看護過程を振り返り、的確なフィードバックを自律的に行う。 3）がん化学療法が行なわれている病棟や外来において、がん化学療法中の患者を（3 事例程度）受け持ち、看護実践を行い、役割モデルを示す。 4）がん化学療法看護について、役割モデルを示し、看護スタッフに具体的な指導・相談を行う（看護スタッフとのコミュニケーション、看護カンファレンス、相談など） 5）がん化学療法看護に専門的に関わっている看護師（専門看護師、認定看護師など）の活動をとおして、認定看護師の役割を考える。	臨地実習	180 (必修)	本課程で学んだ知識・技術を活用し、がん化学療法看護認定看護師に必要な実践・指導・相談の役割を展開する能力を習得する。	1) がん化学療法を安全・確実に実施するためのシステムについて理解する。 2) がん化学療法が行なわれている病棟や外来において、がん化学療法薬を安全かつ的確に取り扱い、経静脈投与、管理を適切に行う。 ・ 患者インタビューや聞き取りによって、患者の持つ問題を明確にする。 ・ 個別的で適切なアセスメントをもとに、その患者と状況にあった看護援助の計画・実施・評価を行う。 ・ 看護過程を振り返り、的確なフィードバックを自律的に行う。 3) がん化学療法が行なわれている病棟や外来において、がん化学療法中の患者を（3 事例程度）受け持ち、看護実践を行い、役割モデルを示す。 4) がん化学療法看護について、役割モデルを示し、看護スタッフに具体的な指導・相談を行う。 （看護スタッフとのコミュニケーション、看護カンファレンス、相談等） 5) がん化学療法看護に専門的に関わっている看護師（専門看護師、認定看護師等）の活動をとおして、認定看護師の役割を考える。	
計	180			計	180			

旧		新	
共通科目	120 時間（＋360 時間）	共通科目	105 時間（＋305 時間）
専門基礎科目	60 時間	専門基礎科目	60 時間
専門科目	195 時間	専門科目	195 時間
学内演習	60 時間	学内演習	60 時間
臨地実習	180 時間	臨地実習	180 時間
総時間	615 時間（＋360 時間）	総時間	600 時間（＋305 時間）